

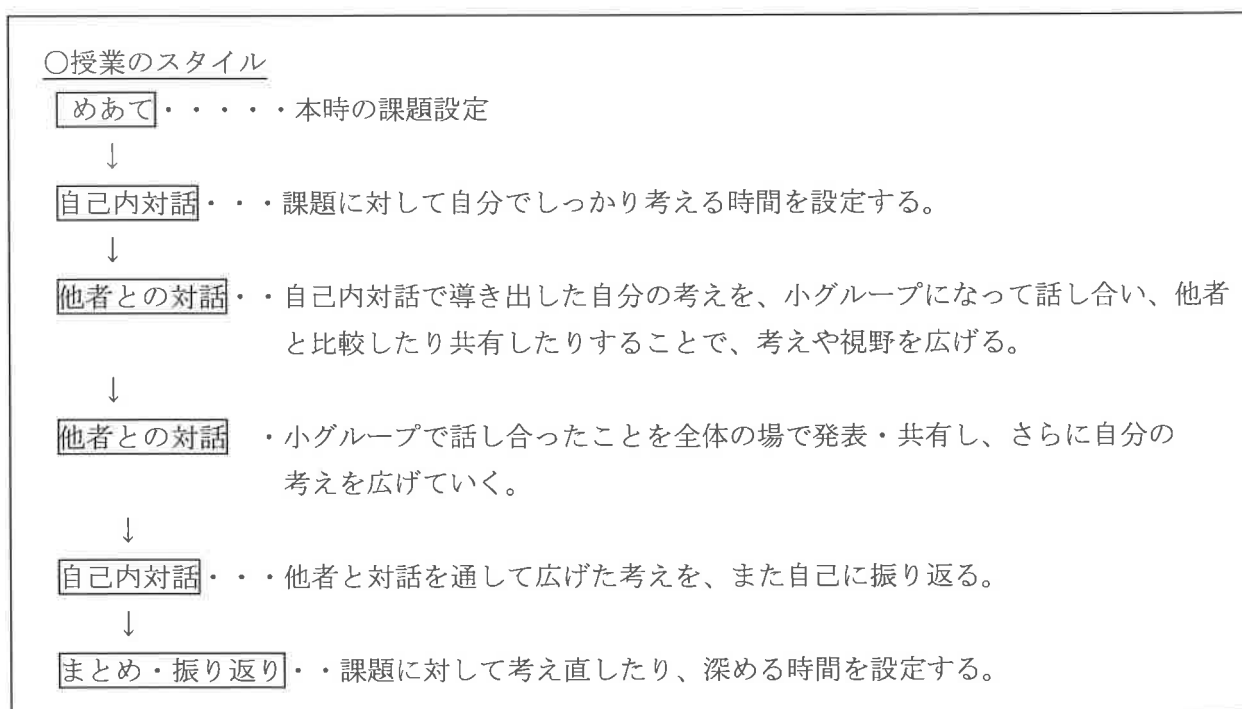
学力向上推進計画

1 基本方針

- (1) 生徒の実態を把握し、生徒の課題に対応した学力向上に係る取組を推進する。
- (2) 生徒一人ひとりの達成目標の実現状況を常に評価し、各学年で身に付けるべき内容を確実に定着させる取組の充実を図る。
- (3) 学ぶことの習慣を身に付けさせるために、基本的な生活習慣の形成を図る。
- (4) 学校、家庭、地域、行政が相互に連携協力し、具体的な計画に基づいた学力向上に係る取組を推進する。
- (5) マネジメントサイクルに基づき、実効性のある学力向上推進の取組を実施する。
- (6) 教師の指導力を高めるとともに、「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」等に係る事項について取組の充実を図る。

2 本年度の学力向上推進目標

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。 (詳細は次頁)



《キャリア形成を促す授業》

交流のある授業 <input checked="" type="checkbox"/> かかわる力	ふり返りのある授業 <input checked="" type="checkbox"/> ふり返る力	題解決をする授業 <input checked="" type="checkbox"/> やりぬく力	元を見通した授業 <input checked="" type="checkbox"/> みとおす力
自分なりの考えを持って仲間と考えの違いを聞き合いかわることでできる力	なぜ、うまくいったのか、できなかったのかなど自分の学びを振り返り改善する力	児童生徒が解決したい問いに向かって、最後まで諦めずに、やり抜こうとする力	学習に対して疑問や問いを持ち、単元のめあて(目標)を設定し次の学びにつなげたり、単元の目標を解決するために計画を立てたり、見通す力

- (2) タブレットドリルの有効活用, 授業や家庭学習の充実を図る。
- (3) 『未来ノート』の活用を家庭と連携しながら行っていく。

3 本年度の学力向上推進の具体目標

- (1) 令和4年度県学力到達度調査(1・2学年:2月)において島尻地区水準に高める。
- (2) 令和4年度糸満市学力検査(3学年:10月)において糸満市水準に高める。

4 本年度の取り組みの重点

- (1) 子どもが主体となる学び合い, 高め合う授業づくりの推進「高嶺中授業スタイル」
 - ① 授業形態の工夫(ペア・グループ学習, 話し合い活動)
 - ② 一人一公開授業の充実
- (2) 『未来ノート』の活用でPDCA
 - ① 未来ノートを書く時間(朝の会・帰りの会の前)を設ける。副担任も支援に入る。朝の会前は『未来ノート』で一日の確認をする。
 - ② 週末の未来ノートの時間は, 1週間の振り返りをさせる。
 - ③ 終末の『未来ノート』を書く時間には担任・副担任は週末ページ check 欄にスタンプ等を入れる。
 - ④ 『未来ノート』を活用し, 学習の見通し・計画と振り返りの充実を図る。
 - ⑤ 『未来ノート』を書く時間(帰りの会前)に, 学習掲示委員が放送を入れる。
 - ⑥ 『未来ノート』を活用したテスト前後の取り組みは, 学習掲示委員が中心となって行う。
- (3) 充実した家庭学習の推進
 - ① 教科別課題の設定
 - ② タブレットドリルの活用
 - ③ 週末はノートで自主学習
- (4) 地域と共にある学校づくりの推進
 - ① コミュニティ・スクール事業及び小中連携, 地域組織を中心とした地域教育資源の活用
 - ② キャリア教育の視点を踏まえた小中連携
- (5) 「書くこと」を意識した取り組み
 - ① 授業での振り返り等, 記述で書かせる。
 - ① 体験したことや学んだこと等を書かせる。
(学年・学級・教科裁量で行い, 新聞社への投書の奨励する→自己肯定感へつなげる。)

5 本年度の具体的取組

- (1) 子どもが主体となる学び合い高め合う授業づくりの推進
 - ① ペア・グループ学習, 話し合い活動, 授業と家庭学習の連携等, 生徒が主体的・協働的に学ぶ学習活動を構築できるよう授業形態を工夫する。
 - ② 職員一人ひとりが公開授業を実施する。
 - ③ 授業と家庭学習の充実に全校体制で取り組む。
 - ④ PDCAサイクルを意識し学習の定着を図る。
- (2) 学力向上 web 分析シートの活用(国語・数学・理科・社会・英語)教科会を持ち, 分析と手立てを考え学力向上につなげる。 [データ] シェア→R4→学力向上→分析シート

(3) 充実した家庭学習の推進

- ① 国語・数学・理科・社会・英語の課題を曜日毎で課す。(タブレットドリル)
- ② 学習の遅れのある生徒などに関しては、習熟度に応じた課題を課すなどの工夫を行い、家庭学習の支援を行う。

(4) 地域と共にある学校づくりの推進

- ① 授業などにおいて地域人材を活用する。(社会に開かれた教育課程)
- ② 小中学校連携事業において、お互いの授業を公開・参観するとともに、情報交換を含めた研究協議会を実施する。

6 PDCAサイクル

めざす授業像、めざす子供の姿を共有し、具体的な手立てや道筋を講じ、PDCA を円滑に推進することで、課題解決に向けた学力向上の取組をマネジメントする。

□ 学びのたしかめを6月・11月の学力定着度調査へ集約する。(中英語は単元調査は継続)

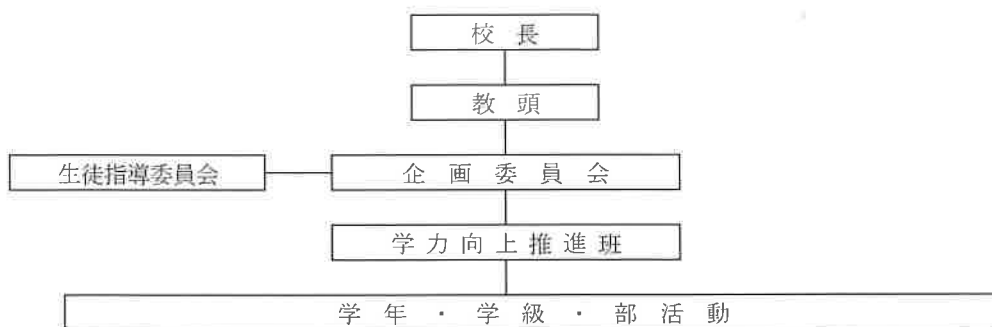
□ 県 web システムを活用した学力調査 (年3回実施)

(6月) 学力定着度調査 (11月) 学力定着度調査 (2月) 学力到達度調査

月	学校の取組	学力向上推進室の主な施策・取組
1月	今年度の「学力向上年間サイクル」スタート <input type="checkbox"/> 年度末の取組 レディネスを揃える取組 <ul style="list-style-type: none"> ・冬休みの宿題点検 ・web 実力調査問題等の活用 (課題のあった問題) ・当該学年の既習事項の定着の確認と補充的指導 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">通年</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援訪問の実施 ・学校改善アドバイザーの配置 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">複数回実施</div> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査結果分析説明 (各地区5月) ・文部科学省調査官招聘研修 (国・算・数・理・英・社)
2月	<input type="checkbox"/> 県学力到達度調査の実施 (小・中) <input type="checkbox"/> 県学力到達度調査結果の活用	
3月	<input type="checkbox"/> 成果や課題の把握、結果分析の共有 ★分析シートの活用 <input type="checkbox"/> 授業改善ポイントの共有と実践 (課題のあった問題) <input type="checkbox"/> 教科年間指導計画の見直し (時数配分等)	
春季休業	<input type="checkbox"/> 春休み期間中 <ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿った補習の実施 ・宿題の提供 等 	
4月	<input type="checkbox"/> 年度初めの支持的風土をつくる学級経営を中核とした取組 <ul style="list-style-type: none"> ・春休みの宿題点検 ・学習規律の徹底 <input type="checkbox"/> 全国学力・学習状況調査結果 (自校採点・入力)	
5月	<input type="checkbox"/> 全国学力・学習状況調査結果の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・成果や課題の把握、結果分析の共有 ・授業改善ポイントの共有と実践 (課題のあった問題) ・教科年間指導計画の見直し (時数配分等) 	
6月	<input checked="" type="checkbox"/> 学力定着度調査の実施と活用 (自校採点・入力)	
7月	<input type="checkbox"/> 全国学力・学習状況調査結果 (文科省公表 予定) <ul style="list-style-type: none"> ・客観的な分析、改善策の再検討 ・個人票を活用した個への支援 	
夏季休業	<input type="checkbox"/> 夏休み期間中 ★分析シートの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿った補習の実施 ・宿題の提供 など ・教育課程の点検・見直し (指導計画、時数配分等) 	
8月下旬	<input type="checkbox"/> 夏休み明けの取組 <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの宿題点検 	
9月	<input type="checkbox"/> 全国学力・学習状況調査結果の活用	
11月	<input checked="" type="checkbox"/> 学力定着度調査の実施と活用 (自校採点・入力)	
12月	<input type="checkbox"/> 成果や課題の把握、結果分析の共有 ★分析シートの活用 <input type="checkbox"/> 授業改善ポイントの共有と実践 (課題のあった問題) <input type="checkbox"/> 次年度教科年間指導計画の検討 (時数配分等)	
冬季休業	<input type="checkbox"/> 冬休み期間中 レディネスを揃える取組 <ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿った補習の実施 ・宿題の提供 など 	

※学力向上 Web 分析シートを活用 (国語・数学・理科・社会・英語) し、PDCAサイクルで分析と手立てを考え学力向上につなげる。 [データ] シェア→R 4→学力向上→分析シート

7 組織図



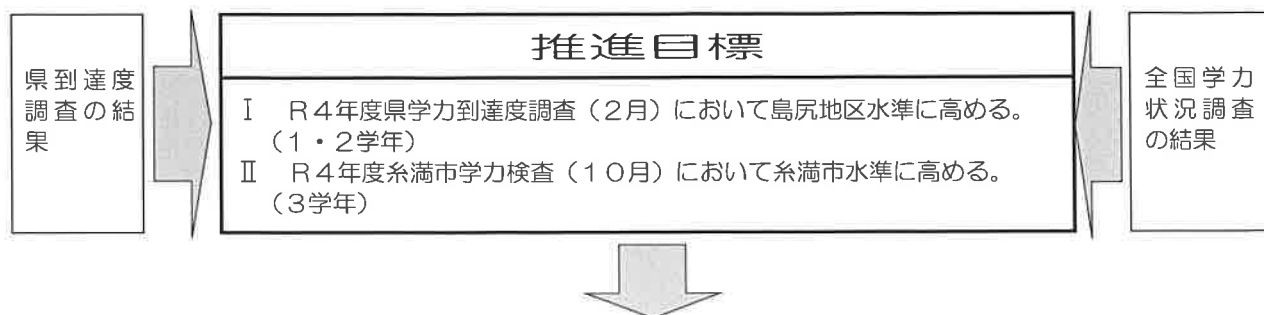
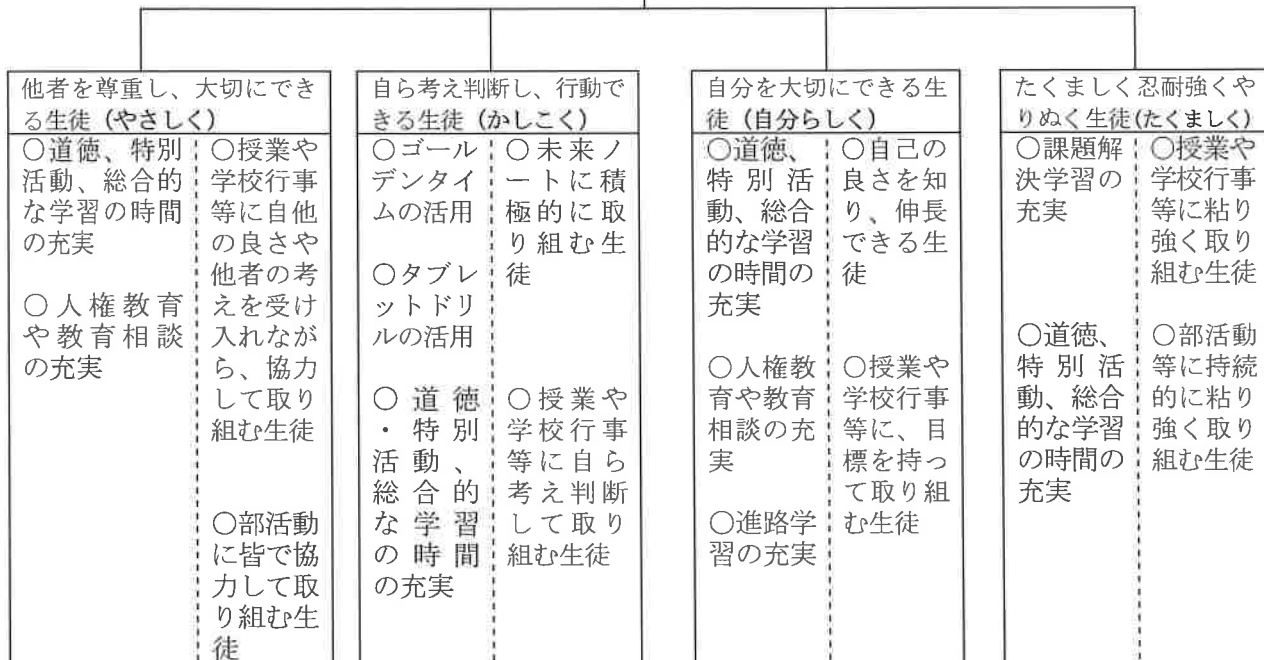
8 取組構想図

県総括目標：児童生徒の学力を全国水準に高め、維持する。（R5全国学調において検証）

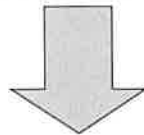
総括目標：(1) 生徒の学力を地区水準に高める。（1・2学年：R4県学力到達度調査において検証）
 (2) 生徒の学力を糸満市水準に高める。（3学年：R4糸満市学力検査において検証）

本校の学力向上推進の目標

- (1) 全生徒が参加する、わかる授業（高嶺中授業スタイル）で、「確かな学力」の育成を図る。
- (2) ルーブリック評価でPDCAの実践「学ぶ力」の育成を図る。
- (3) 「未来ノート」とタブレットドリルを有効活用し、家庭学習の定着を図る。



取組の重点			
柱1 子どもが主体となる 学び合い高め合う授業 づくりの推進	柱2 地域と共にある学校 づくりの推進	柱3 未来ノートの実施	柱4 充実した家庭学習の 推進
取組事項	取組事項	取組事項	取組事項
1 授業形態の工夫（ペア・グループ学習，話し合い活動など） 2 校内研修の推進（市内教科研の活用，一人一公開授業等）	1 コミュニティ・スクール事業及び地域組織を中心とした地域教育資源の活用 2 キャリア教育の視点を踏まえた小中連携	1 帰りの会において『未来ノート』を書かせる。 2 学習の計画と振り返り	1 教科別課題の設定 2 タブレットドリルの有効活用（授業・家庭学習）



取組の評価		
柱	取組事項	評価指標（達成目標含む）
総括	糸満市学力検査（3学年：10月）	糸満市水準に高める。
	県到達度調査（2学年：2月）	島尻地区水準に高める。
1	(1) 授業形態の工夫	ペア・グループ学習，話し合い活動，家庭学習との連携等
	(2) 校内研修の推進	一人一公開授業の実施
2	(1) 地域教育資源の活用	PBL学習等で地域人材を活用する。
	(2) 小中連携	お互いの授業を公開・参観するとともに、情報交換を含めた研究協議会を実施する。
3	(1) 未来ノートの実施	学習習慣を身につけさせる。
		目標を持ち、計画を立て振り返るPDCAサイクルを意識させる。
4	(1) 教科別課題の設定	教科毎に年間を通して計画的・継続的に課題を与える。
	(2) タブレットドリルの活用 授業や家庭学習の往還	授業や家庭学習と連結した課題を与え、フィードバックもその中で行い、基礎基本事項の確実な定着を図る。

10、本年度の推進目標達成のための取組

期 題	生徒の実態	達成目標	具体的取組	評価方法	評価
確かな学力の定着	①基礎・基本の定着 ○昨年度の県学力到達度調査の平均正答率 国語：55.7 % 社会：42.2 % 数学：39.0 % 理科：36.4 % 英語：53.0 %	①各教科の基礎的・基本的事項を明確にし、県学力到達度調査の平均点を昨年度より上回る。 ②わかる授業・参加する授業を展開し7割以上の生徒が評定3以上である	・数学において等質による少人数指導の充実 ・家庭との連携を通して、家庭学習の定着を図る。 ・学習の目標を毎時間提示し確認する ・形成的評価による理解状況の把握 ・評価基準表の積極的な活用 ・導入の工夫等、変化のある授業の実施。	・平成 24 年度県学力到達度調査の結果 ・学年末の評定の結果	■国社数理英の県学力到達度調査において平均点が県・地区・市内の平均点を上回っているか。 ■学年末の評定で3以上の生徒が7割を上回ったか。
	②学習を支える力の育成 ○全学年全学級で家庭学習ノートの取組を行っているが取り組みに個人差がある。 ○昨年度の平均読書冊数(冊) 15冊以上読んだ生徒の割合(%) ○全体集会での聞く態度は、ほとんどの生徒ができていますが、授業での聞く態度に課題がある。	①全生徒が年間3冊以上の家庭学習ノートに取り組む。 ②読書の習慣化を図り、全生徒が年間15冊以上を読み、平均読書冊数が40冊を超える ③全体集会や授業等で、8割以上の生徒が人の話をしっかり聞くことができる。	・授業と連動した家庭学習の取組の推進 ・学校、家庭、地域と連携した家庭学習時間の確保と取組推進の啓蒙。 ・朝の読書活動の継続実施 ・読書旬間、月間の設定 ・保護者による読み聞かせの実施 ・集会や授業等で聞く態度の指導を徹底する。	・終了したノートの集計結果 ・学校図書館の貸出冊数の集計の結果 ・学校生活に関するアンケートの実施	■全生徒が、年間3冊以上取り組むことができたか。 ■全生徒が年間15冊以上を読み、平均読書冊数が40冊を越えたか。 ■全体集会や授業等で8割以上の生徒が人の話をしっかり聴くことができたか。
	①人間関係づくり ○自分の考えを發表することができる生徒の割合(47%)	①8割以上の生徒が自分の考えを發表することができる	・朝の会、帰りの会等での1分間スピーチの実施 ・教育相談活動の充実を図る。	・学校生活に関するアンケートの実施	■8割以上の生徒が自分の考えを發表することができたか。
豊かな人間性の育成	記の将来や生き方を考える ○学級の係や当番活動、生徒会活動など、積極的に活動している生徒の割合(65%)	①8割以上の生徒が係や当番活動、生徒会活動など積極的に活動することができる。	・意図的・計画的に学校生活のあらゆる場面で活動機会を設定する。 ・活動場面における教師の具体的・効果的な指導、支援の工夫。	・学校生活に関するアンケートの実施	■8割以上の生徒が係や当番活動、生徒会活動など積極的に活動することができたか。
	②記の将来や生き方を考える ○体験活動を通して楽しく活動できている生徒の割合(%)	②豊かな体験や地域の人々との出会いを通して自らの夢や希望を育む。	・2学年において5日間の職場体験学習を実施する。 ・各教科や領域等で体験的活動を積極的に取り入れる。	・進路アンケートや生活アンケート、作文、発表会等を通して、生徒の変容を把握する。	■8割以上の生徒が体験活動や学校行事等を通して、自分の長所や個性を發揮できたか。

項目	事項	生徒の実態	達成目標	具体的取組	評価方法	評価
健康・体力の育成	① 生活と関連した健康づくり	○毎朝朝食を食べている生徒の割合 (%) ○ほとんど食べていない生徒の割合 (%)	① 9割以上の生徒が健康と食への関心をもつことができる。	・「早寝・早起き・朝ごはん・元気に徒歩登校」啓蒙活動の継続実施。	・アンケートの実施	■ 毎朝朝食を食べている生徒が9割を上回ったか。
	② 運動遊びを通じた体力づくり	○昨年度の部活動加入率 4月(72%) 3月(63%) ○25m泳ぐことのできる生徒の割合 クロール(76%) 平泳ぎ(79%)	①部活動加入率 75%以上を目指す。 ②クロールと平泳ぎの泳力テストで8割以上の生徒が25m泳ぐことができる。	・外部コーチ、父母会との連携 ・泳力テストの実施 ・新体力テストの実施	・部活動加入率の調査を行う。 ・泳力テストの結果	■ 75%以上の生徒が部活動に加入しているか。 ■ クロールと平泳ぎの泳力テストで8割以上の生徒が25m泳ぐことができたか
基本的な生活習慣の形成	① 生活リズムの確立	○朝の遅刻についてはほとんどいないが、特定の生徒の遅刻がある。 ○家庭学習の習慣が「身につけている」「だいたい身につけている」生徒の割合 1学期(77%) 2学期(81%)	○朝の遅刻者0を目指す ②家庭学習(塾なども含む)を1時間以上できる生徒が8割以上いる。	・遅刻指導の徹底と保護者との連携を密にする。(欠席生徒の理由把握も含めて) ・全校で家庭学習の定着を図る取組の推進。 ・学校、家庭、地域と連携した家庭学習時間の確保と取組推進の啓蒙。	・朝の遅刻生徒の数を記録し、集計する。 ・家庭学習に関するアンケートを実施し、結果を集計する。	■ 朝の遅刻が減少傾向にあるか ■ アンケートの結果、家庭学習を1時間以上できる生徒が8割を上回ったか
	② 規範意識・マナーの育成	○「高中3つの誇り(挨拶・後片づけ・快い返事)」を実践できている生徒の割合 1学期(72%) 2学期(66%)	① 8割以上の生徒が「高中3つの誇り」を実践できる。	・「高中3つの誇り」を意識させる指導を行う。 ・朝のあいさつ運動の継続実施。 ・来校者に対しても元気なあいさつができるような指導を行う。	・学校生活に関するアンケートを実施し、結果を集計する。	■ 集計結果から、8割以上の生徒が「高中3つの誇り」を実践することができたか。

11、今年度の重点取組事項

(1) 確かな学力(基礎・基本、活用能力、学習意欲)の向上を図る取り組み

- ① 学級担任として
 - ア、学力不振の生徒への手立て(家庭学習、家庭との連絡等)
 - イ、教室の環境整備
- ② 教科担任として
 - ア 日々の授業改善
 - イ 学力下位層の生徒への手立ての工夫
 - ウ 教材研究の充実
 - エ 評価方法の工夫・改善
 - オ 学習規律の徹底(ベル席、学習の準備、聴く態度等)
- ③ 学年として
 - ア、学力不振の生徒の把握と手立て
- ④ 学校全体として
 - ア、校内研修の充実

(研究授業の実施, 一人一公開授業の実施, 評価に関する共通理解 等)

(2) 家庭学習ノートの定着および家庭との連携

- ① 学級担任として
 - ア、家庭学習ノートの提出状況をチェック・・・学習係等の活動として
 - イ、生徒への激励、未提出生徒への声かけと援助
 - ウ、家庭との連携・・・学級通信等で提出状況を知らせる
- ② 教科担任として
 - ア、教科の予習・復習の奨励・・・授業と連動した家庭学習の取組の推進
- ③ 学年として
 - ア、学級の取組状況、生徒の提出状況の把握
 - イ、未提出生徒への指導・援助
 - ウ 学級担任との連携
- ④ 年間 10冊以上終了した生徒の表彰
(ノートの使い方, 内容等も含めて, 表彰の可否を検討をする)

(3) 読書活動の継続・充実

- ① 学級担任として
 - ア、朝の読書指導 (本を準備できていない生徒への声かけなど)
 - イ、学級担任も一緒に朝の読書を行う
 - ウ、読書内容の充実を図る (小説やエッセイなど活字のみの本にも興味を持たせる)
 - エ、朝の会や帰りの会等で本の紹介をする (図書委員の活用)
- ② 教科担任として
 - ア、授業内での調べ学習で図書館を活用する (学習内容や教科と関連する本の紹介など)
- ③ 学年として
 - ア、個人、学級別の図書貸出冊数の把握および図書室利用の推進
 - イ、学年朝会等での読書感想の発表 (国語科との連携)
- ④ 学校全体として
 - ア、保護者および生徒による読み聞かせの実施 (保護者や小学校との連携)

12、評価方法

生徒、教職員、保護者を対象に「学校評価」を11月～12月に行い、集計して考察をする。

13、成果等の公表について




2月に全保護者に向け、学校評価と併せて学力向上対策についてのアンケート結果と考察、成果と課題についてリーフレット等で公表する。



高嶺中学校 授業スタイル

授業で身に付けたい < 4つの力 >

～ み…見通す力 か…関わる力 や…やり抜く力 ふ…振り返る力 ～

備 え る	<p>○授業の準備をして、休み時間に入る。</p> <p>○1分前着席、座った状態でベルを待つ。(授業への気持ちの切り換え)</p> <p>○チャイムと同時に黙想する。(心を落ち着かせて黙想)</p>
つ か む	<p>◎「本時の目標(めあて)」を確認し「学習課題の解決」へ向けて見通しを持つ。</p> <p>「今日はこんなことが分かればいいんだなあ」「やってみたい」 「なぜだろう」「～を使って考えてみよう」等</p> 
広 げ る ・ 深 め る	<p>◎課題について考える。問</p> <p>※課題解決に向けて行動する。</p> <p>○予測する。(課題解決の方法を考える) み</p> <p>○必要な情報を取り出す。</p> <p>・文章・情報・グラフ・図表・記号・心情表現等の多様な情報をもとに読み取る。</p> <p>○自力解決(一人でじっくりと考える) 自己内対話</p> <p>・自分自身の考えを持つ。 ・既習事項を活かして考える。 } 書いてまとめる。 根拠を明らかにする。</p> <p>・「～を使って考えたら～だ。」 ・「例えば、～だとしたらどうなるだろう。」 ・「本文に～と書かれているから、～だと思うなあ。」 など</p> <p>○集団解決(考えを伝える、話を聞く、比べる、つなく、深める) 交流・他者との対話</p> <p>・自分の意見を相手に分かるように伝える。 か</p> <p>・自分の考えと比べながら友達のを聞く。メモする。 問</p> <p>※「どこが」「どのように」同じなのか、違うのかが分かる。</p> <p>・質問したり、説明したりして練り合う。 や</p> <p>・友達のを考えの良さや自分との違いに気づく。 →</p> <p>・自分の考えを見直し、修正する。 自己内対話</p> <p>「なるほど、～ということは、 ～なのか。」 「○○さんの、 □□という考えもいいな。」</p>  
ま と め る ・ 振 り 返 る	<p>◎本時の目標(めあて)の再確認と自己の達成状況の確認。</p> <p>○本時の学習のまとめをする。</p> <p>○振り返りをする。 ふ → 「何ができ、何ができなかったか」など</p> <p>○学んだことを活用する。</p> <p>○さらに学びたいこと、知りたいことを見つける。 問</p> 